

本の装い百年—近代日本文学にみる装幀表現 出展リスト(出版年順)

	展示順	タイトル・出版者	著者	出版社	出版年	装幀者・挿画家	装幀の特徴	
1	C1	松飾徳若譚, 5編10巻	假名垣魯文 編	青盛堂	1871	明治4	画: 錦朝樓芳虎	四六判、四つ目綴じ、本文木版製版、表紙木版
2	C2	黄薔薇: 欧洲小説	三遊亭圓朝 口述 石原明倫 筆記	日吉堂	18--			四六判、四つ目綴じ、表紙木版、本文活版
3	C4	高橋阿傳夜刃譚, 3編6巻	假名垣魯文 著	青盛堂	1879	明治12	画: 守川周重	四六判、四つ目綴じ、初編本文活字、2及び3編は本文木版製版、挿画多色摺り木版
4	C5	佳人之奇遇, 8編16巻	東海散士 著	柴四朗	1885	明治18		菊判、康熙綴じ、本文木版製版、挿画石版
5	C6	新磨妹と背かすみ	坪内逍遙 著	兒玉永成	1886	明治19	挿画: 松齋吟光 彫工: 野口圓活	菊判、本文活版、四つ目綴じ
6	C7	想夫戀: 十日物語	ボッカス翁原 著 ア・サバチエール・ド・カストル 訳	丸善	1886	明治19	挿画: ビゴー	四六判、四つ目綴じ、本文活版、挿画銅版
7	C8	當世書生氣質: 一讀三歎	坪内逍遙 著	晚青堂	1886	明治19		菊判、四つ目綴じ、本文活版、挿画多色摺り木版
8	C9	諷誠京わらんべ	坪内逍遙 著	日野九郎兵衛	1886	明治19		四六判、ボール表紙、三方マール染め、本文活版
9	C10	諷誠京わらんべ 再版	坪内逍遙 著	鈴木喜右衛門	1886	明治19		四六判、ボール表紙、三方黄色マール染め、本文活版
10	C3	黄薔薇: 欧洲小説	三遊亭圓朝 口述 石原明倫 筆記	金泉堂	1887	明治20		四六判、ボール表紙、表紙多色クロモ石版、本文活版
11	C11	新編浮雲	二葉亭四迷 /坪内逍遙 合著	金港堂	1887	明治20	画: 大蘇芳年	四六判、くるみ表紙、表紙石版、本文活版、口絵多色摺り木版
12	C12	新磨妹と背鏡 再版	坪内逍遙 著	鈴木金輔	1889	明治22	挿画: 松齋吟光 彫工: 野口圓活	四六判、くるみ表紙、花布、表紙石版、本文活版
13	C13	新色さんげ (聚芳十種 第2巻)	尾崎紅葉 著	春陽堂	1891	明治24		四六判、結び綴じ、くるみ表紙、本文活版、挿画木版
14	C14	二人女	尾崎紅葉 著	春陽堂	1892	明治25	画: 鈴木華邨/武内桂舟	菊判、結び綴じ、本文活版、表紙石版、口絵木版
15	C15	塙園右衛門	宮崎三味 著	春陽堂	1893	明治26	口絵: 渡邊省亭/久保田米僊	菊判、中綴じ、くるみ表紙、表紙木版多色摺、本文活版、口絵多色摺り木版
16	C16	ひげ男	幸田露伴 著	博文館	1896	明治29	口絵: 富岡永洗	菊判、結び綴じ、本文活版、口絵多色摺り木版
17	C17	若菜集	島崎藤村 著	春陽堂	1897	明治30	画: 中村不折	四六判、本文活版、挿画写真製版
18	C18	黄檣句	尾崎紅葉 著	春陽堂	1898	明治31		菊判、平綴じ(針金)、本文活版、口絵(画家名未詳)コロタイプ+木版多色摺
19	D12	田毎かすみ	泉鏡花 著	春陽堂	1903	明治36	画: 鎬木清方	布装、平綴じ(針金)、薄表紙 タイトル・模様部分箔押し
20	D13	風流線	泉鏡花 著	春陽堂	1904	明治37	口絵: 鱒崎英朋	半布装、丸背、上製
21	D1	吾輩八猫デアル	夏目漱石 著	大倉書店	1905	明治38	装幀: 橋口五葉 挿画: 中村不折(上編)/淺井忠(中下編)	角背、薄表紙(改装)、挿画石版多色刷(クロモ)、天金
22	A1	海潮音	上田敏 訳	本郷書院	1905	明治38	装幀: 小寺健吉	布装、角背、上製
23	D14	愛火	泉鏡花 著	春陽堂	1906	明治39	装幀: 川村清雄 挿画: 鮎崎秀朋	布装、丸背、上製、ジャケットカバー木版
24	D15	草迷宮	泉鏡花 著	春陽堂	1908	明治41	口絵: 岡田三郎助	布装、丸背、上製、表紙色箔型押し
25	D16	婦系圖	泉鏡花 著	春陽堂	1908	明治41	口絵: 鎬木清方/鱒崎英朋	布装、丸背、上製、表紙色箔金箔型押し文様、見返し石版印刷
26	A2	草合	夏目漱石 著	春陽堂	1908	明治41	装幀: 橋口五葉	紙装、表紙木版と漆型引き、見返し石版印刷
27	C19	妻	田山花袋 著	今古堂書店	1909	明治42	口絵: 橋本邦助	菊判、並製、表紙石版、タイトル箔押し、本文活版、カラー口絵(写真製版)
28	A3	三四郎	夏目漱石 著	春陽堂	1909	明治42	装幀: 橋口五葉	布装、雲母引き寒冷紗に凸版刷り、見返し石版印刷
29	A4	邪宗門	北原白秋 著	易風社	1909	明治42	装幀: 石井柏亭 挿画: 石井柏亭/山本鼎 彫版: 山本鼎	布装(平は紙)、角背、上製、天金、二方未裁断
30	D2	四篇	夏目漱石 著	春陽堂	1910	明治43	装画: 橋口五葉	紙装、丸背、上製、表紙石版印刷
31	D3	吾輩八猫デアル	夏目漱石 著	大倉書店	1911	明治44	装画: 橋口五葉	紙装(人工革使用)、袖珍本、がんだれ表紙、表紙箔押し模様 見返し木版、天金
33	D17	三味線堀	泉鏡花 著	靄山書店	1911	明治44	装幀: 橋口五葉	紙装、角背、上製、背箔押し模様
34	A5	すみだ川	永井荷風 著	靄山書店	1911	明治44	装幀: 橋口五葉	紙装、角背、上製、背箔押し模様
35	A6	門	夏目漱石 著	春陽堂	1911	明治44	装画: 橋口五葉	半布装、平・背箔押し模様
36	D4	彼岸過迄	夏目漱石 著	春陽堂	1912	大正元	装画: 橋口五葉	紙装、角背、上製、表紙・口絵木版、見返しなし
37	D18	南地心中	泉鏡花 著	文藝書院	1912	大正元	装幀: 橋口五葉	紙装、角背、上製、背箔押し模様

	展示順	タイトル・出版者	著者	出版社	出版年	装幀者・挿画家	装幀の特徴	
38	D19	国貞画々く	泉鏡花 著	春陽堂	1912	大正元	装幀：橋口五葉	紙装、角背、上製、表紙・見返し木版
39	D20	櫻草	泉鏡花 著	文藝書院	1913	大正2	装幀：橋口五葉	紙装、角背、上製、表紙木版
40	D5	こゝろ	夏目漱石 著	岩波書店	1914	大正3	装幀：夏目漱石	紙装、角背、上製、表紙・見返し・口絵木版
41	D6	行人	夏目漱石 著	大倉書店	1914	大正3	装幀：橋口五葉	半革装(革と紙)、角背、上製、見返し口絵木版
42	D7	三四郎 それから 門	夏目漱石 著	春陽堂	1914	大正3	装幀：津田青楓	布装(染め)、袖珍本、紙の貼り題簽、見返しなし、天金
43	C20	新譯栄華物語	与謝野晶子 著	金尾文淵堂	1914	大正3	装幀/装画：中澤弘光	紙装、角背、上製、天金
44	D21	日本橋	泉鏡花 著	千草館	1914	大正3	装幀：小村雪岱	紙装、角背、上製、表紙・見返し木版
45	D22	参宮日記	泉鏡花 著	春陽堂	1914	大正3	木版口絵：鱧崎英朋	紙装、角背、上製、表紙・見返し木版、タイトル金箔押し
46	D8	彼岸過迄：四篇	夏目漱石 著	春陽堂	1915	大正4	装幀：津田青楓	布装(染め)、袖珍本、紙の貼り題簽、見返しなし、天金
47	A7	小夜曲(せれなあと)：繪入詩集	竹久夢二 著	新潮社	1915	大正4	装幀：恩田孝	布装、角背、上製、天金
48	D9	行人	夏目漱石 著	大倉書店	1916	大正5	装幀：津田青楓	布装、袖珍本、見返し木版、天金
49	D23	愛染集	泉鏡花 著	千草館	1916	大正5	装幀：小村雪岱	紙装、角背、上製、表紙・見返し木版、天金
50	D10	心	夏目漱石 著	岩波書店	1917	大正6	装幀：夏目漱石 版刻：伊上凡骨	布装(染め)、袖珍本、見返し・口絵木版、天金
51	D11	明暗：漱石遺作	夏目漱石 著	岩波書店	1918	大正7	装幀：津田青楓	布装(印刷)、袖珍本、紙の貼り題簽、見返し木版、天金
52	D24	鴛鴦帳：鏡花小史	泉鏡花 著	止善堂	1918	大正7	装幀：小村雪岱	紙装、角背、上製、表紙雲母引きに木版、見返し木版、天金
53	D25	紅梅集	泉鏡花 著	春陽堂	1918	大正7	装幀：小村雪岱	布装、丸背、薄表紙、表紙木版(布刷り)一部金箔押し、背に革題簽にタイトル金箔押し、天金
54	D26	友染集	泉鏡花 著	春陽堂	1919	大正8	装幀：小村雪岱	布装、丸背、絹表紙木版多色摺、見返し木版、背の革題簽にタイトル金箔押し、天金
55	D27	雨談集	泉鏡花 著	春陽堂	1919	大正8	装幀：小村雪岱	布装、丸背、薄表紙、表紙・見返し木版、天金
56	C21	女の執着	岩野泡鳴 作	日本評論社	1920	大正9	装幀：竹久夢二	紙装、丸背、上製、表紙木版、天金
57	A8	影燈籠	芥川龍之介 著	春陽堂	1920	大正9	装幀：野口巧造	紙装、丸背、上製、平は赤の模様紙に題箋
58	C22	静かなる眉：小曲	西條八十 著	交蘭社	1920	大正9		紙装、丸背、上製、表紙木版、天金
60	A9	夜來の花	芥川龍之介 著	新潮社	1921	大正10	書：小澤中兵衛 画：小穴隆一	布装、丸背、上製
61	A10	注文の多い料理店	宮沢賢治 著	近森善一出版	1924	大正13	挿画：菊池武雄	紙装、角背、上製、表紙に図版の貼付け
62	C23	木下利玄全歌集	木下利玄 著	岩波書店	1926	大正15	装幀：岸田劉生	紙装、丸背、上製、表紙・見返しに図版
63	A11	蝗の大旅行	佐藤春夫 著	改造社	1926	大正15	装幀/扉画：富澤有為男 挿画：島田訥郎	布装、丸背、上製
64	C24	構成派研究	村山知義 著	中央美術社	1926	大正15	装幀：村山知義	紙装、角背、並製
65	A12	新しき春	西条八十 作歌	寶文館・令女界新年號附録	1928	昭和3		布装(絹)、角背、結び綴じ、表紙に銀箔、紙題箋
66	D28	昭和全集	泉鏡花 著	改造社	1929	昭和4	装幀：鍋木清方	布装、丸背、上製、木版タイトル、背銀箔押し、見返し木版、天金
67	C25	嬰粟はなぜ紅い	宇野千代 著	中央公論社	1930	昭和5	装幀：東郷青児	紙装、丸背、上製
68	C26	太陽のない街(定本日本プロレタリア作家叢書 4)	徳永直 著	戦旗社	1930	昭和5	装幀：柳瀬正夢 挿画：目黒生	紙装、角背、並製
69	C27	世界選手	ポオル・モオラン 著 飯島正 訳	白水社	1930	昭和5	装幀/挿画：阿部金剛	紙装、丸背、上製、表紙・表紙下部に銀箔
70	B1	地獄の季節	アルチュール・ランボオ 作 小林秀雄 訳	白水社	1930	昭和5	装幀：佐野繁次郎	紙装、丸背、上製
71	B2	伊豆の踊り子	川端康成 著	江川書房	1932	昭和7	意匠：小穴隆一 版：都筑徳三郎	木 紙装、丸背、上製、表紙・見返し木版画
72	B3	春琴抄	谷崎潤一郎 著	創元社	1933	昭和8	装幀：谷崎潤一郎 口絵挿画：北野恒富	布装(平は漆引き紙)、角背、上製、見返し揉み紙
73	D29	斧琴菊	泉鏡花 著	昭和書房	1934	昭和9	装幀：小村雪岱 刻：大倉藤太 摺：田口喜久松 口絵：尾崎紅葉	紙装、丸背、上製、表紙木版、見返し印刷、青の天染め
74	C28	秋の朝：創作集	吉田紘二郎 著	改造社	1935	昭和10	装幀：恩地孝四郎	紙装、角背、上製、表紙 木版多色摺

	展示順	タイトル・出版者	著者	出版社	出版年	装幀者・挿画家	装幀の特徴
75	C29	猫町	萩原朔太郎 著	版畫莊	1935 昭和10	装幀：萩原朔太郎案 画：川上澄生	紙装、角背、上製(南京装)、小口色染め
76	C30	一に十二をかけるのと十二に一をかけるのと：少年少女劇集	久保田万太郎 著	中央公論社	1937 昭和12	画：伊藤熹朔	紙装、角背、上製
77	C31	猫と庄造と二人のをんな	谷崎潤一郎 著	創元社	1937 昭和12	装幀/挿画：安井曾太郎	紙装、角背、薄表紙、小口色染め
78	B4	詩人の使命	萩原朔太郎 著	第一書房	1937 昭和12	装幀：阿部金剛	紙装、丸背、上製
79	B5	居候勿々	内田百閒 著	小山書店	1937 昭和12	挿画：谷中安規	紙装、丸背、上製、つきつけ、平は模様刷、綴じ見返し
80	B6	馬來乙女の歌へる	イヴァン・ゴル 著 堀口大學 訳	驪人荘	1937 昭和12	挿画：アンリ・マチス	布装、角背、上製
81	C32	子供の四季	坪田譲治 著	新潮社	1938 昭和13	装幀/装画：小穴隆一	紙装、丸背、上製
82	D30	薄紅梅	泉鏡花 著	中央公論社	1939 昭和14	装幀：小村雪岱 表紙刻摺：深澤索一 口絵：鍋木清方 口絵刻摺：安達豊久	紙装、丸背、上製、表紙木版、見返し印刷
83	B7	采花集	與謝野寛 著 與謝野晶子 編	金尾文淵堂	1941 昭和16	装幀：中澤弘光	紙装、丸背薄表紙、表紙・見返し木版
84	C33	マライの健ちゃん	金子光晴 作	中村書店	1943 昭和18	画：神保俊子	紙装、角背、上製
85	C34	ひとりだち	徳永直 著	労働文化社	1947 昭和22	装幀：中川一政	紙装、角背、並製
86	B8	ふたごの星 (宮沢賢治童話選集第1巻)	宮沢賢治 著	大日本雄弁会講談社	1948 昭和23	装幀：寺田政明 挿画：川上四郎	紙装、丸背、上製
87	B9	わが出雲・わが鎮魂	入沢康夫 著	思潮社	1968 昭和43	装画/装幀：梶山俊夫	紙装、角背、フランス装
88	B10	黒い雨 駅前旅館	井伏鱒二 著	新潮社	1979 昭和54	装画：塩出英雄	布装、丸背、上製

本の装い百年—近代日本文学にみる装幀表現  
画家・装幀家一覧

あ	<p><b>浅井忠(あさい-ちゅう)1856—1907</b> 明治時代の洋画家。安政3年6月21日生まれ。工部美術学校でフォンタネージに師事。明治22年明治美術会の創設に参加、「春畝(しゅんぼ)」などを発表。31年東京美術学校教授。フランス留学後の35年京都高等工芸教授。門下に安井曾太郎(そうたろう)、梅原竜三郎らがいる。関西美術院初代院長。明治40年12月16日死去。52歳。江戸出身。号は木魚、黙語。作品はほかに「収穫」「グレーの秋」、著作に「木魚遺響」など。</p>
	<p><b>阿部金剛(あべ-こんごう)1900—1968</b> 昭和時代の洋画家。明治33年6月26日生まれ。阿部浩の長男。岡田三郎助にまなぶ。フランスでピシエールに師事し、藤田嗣治(つぐはる)らの影響をうける。帰国後の昭和4年二科展に初入選。以後、超現実主義的な作品を発表。昭和43年11月20日死去。68歳。岩手県出身。慶大中退。作品集に「阿部金剛画集」。</p>
い	<p><b>石井柏亭(いしい-はくてい)1882—1958</b> 明治-昭和時代の洋画家。明治15年3月28日生まれ。石井鼎湖(ていこ)の長男。父に日本画を、浅井忠に洋画をまなぶ。明治34年无声(むせい)会に参加。40年山本鼎(かなえ)らと美術誌「方寸」を創刊し、翌年「パンの会」を結成。渡欧後の大正3年二科会を、昭和11年一水会を創立した。昭和10年帝国美術院会員。昭和33年12月29日死去。76歳。東京出身。東京美術学校(現東京芸大)中退。本名は満吉。代表作に「パリの宿にて」。</p>
	<p><b>伊上凡骨(いがみ-ぼんこつ)1875—1933</b> 明治-昭和時代前期の木版彫師。明治8年5月21日生まれ。24年に上京、初代大倉半兵衛に木版彫刻をまなぶ。33年「明星」の挿絵で注目される。水彩画や素描の質感を木版でたくみに表現した。「光風」の口絵、竹久夢二の版画、夏目漱石らの本の装丁など、ひろい分野に活躍した。昭和8年1月29日死去。59歳。徳島県出身。本名は純蔵(三)。代表作に石井柏亭著「東京十二景」の挿絵。</p>
	<p><b>伊藤熹朔(いとう-きさく)1899—1967</b> 大正-昭和時代の舞台美術家。明治32年8月1日生まれ。伊藤為吉の5男。伊藤道郎の弟。千田是也の兄。大正14年築地小劇場の「ジュリアス・シーザー」の装置でデビュー。「夜明け前」などで写実的な装置を確立。「雨月物語」などの映画のセットも手がけ、俳優座の設立にも参画した。昭和39年芸術院会員。昭和42年3月31日死去。67歳。東京出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。著作に「舞台装置の研究」など。</p>
お	<p><b>岡田三郎助(おかだ-さぶろうすけ)1869—1939</b> 明治-昭和時代前期の洋画家。明治2年1月12日生まれ。曾山幸彦、黒田清輝にまなぶ。明治30年からはフランスでコランに師事する。帰国後、東京美術学校(現東京芸大)教授。大正元年本郷洋画研究所を設立。帝国美術院会員。昭和12年第1回文化勲章。昭和14年9月23日死去。71歳。肥前佐賀出身。旧姓は石尾。幼名は芳三郎。代表作に「某夫人像」「読書」など。</p>
	<p><b>小穴隆一(おあな-りゅういち)1894—1966</b> 大正-昭和時代の洋画家、随筆家。明治27年11月28日生まれ。太平洋画会研究所にまなぶ。二科会展に第1回以来出品。親友の芥川竜之介をモデルにした「白衣」があり、彼の著作集の装丁も手がけた。芥川との交友をつづった「二つの絵」では芥川私生児説を発表し話題となった。昭和41年4月24日死去。71歳。長野県出身。開成中学中退。俳号は一游亭。</p>
	<p><b>恩地孝四郎(おんち-こうしろう)1891—1955</b> 大正-昭和時代の版画家、装本家。明治24年7月2日生まれ。抽象木版画の先駆者。竹久夢二と親交をむすび、大正3年同人誌「月映(つくばえ)」を創刊する。日本創作版画協会、日本版画協会の創立に参加。萩原朔太郎の「月に吠える」や「北原白秋全集」などの装丁も手がけた。昭和30年6月3日死去。63歳。東京出身。東京美術学校(現東京芸大)中退。著作に「本の美術」など。</p>
か	<p><b>鏑木清方(かぶらき-きよかた)1878—1972</b> 明治-昭和時代の日本画家。明治11年8月31日生まれ。条野採菊(じょうの-さいぎく)の子。水野年方(としかた)に師事。明治35年「一葉女史の墓」で注目される。以後、浮世絵の伝統をいかした作品を発表。文展で活躍し、帝展審査員となる。昭和12年芸術院会員。29年文化勲章。昭和47年3月2日死去。93歳。東京出身。本名は健一。作品はほかに「築地明石町」など。著作に「こしかたの記」。</p>
	<p><b>川村清雄(かわむら-きよお)1852—1934</b> 明治-昭和時代前期の洋画家。嘉永(かえい)5年4月26日生まれ。田能村直入(たのむら-ちよくにゅう)に文人画を、ついで開成所の川上冬崖(とうがい)に洋画をならう。ベネチア美術学校でまなび、帰国後、画塾をひらく。明治22年明治美術会の創立に参加、35年巴(ともえ)会を結成。昭和9年5月16日死去。83歳。江戸出身。号は時童。作品に「少女」「虫干」など。</p>

本の装い百年—近代日本文学にみる装幀表現  
画家・装幀家一覧

	<p><b>川上澄生(かわかみ-すみお)1895—1972</b> 大正-昭和時代の版画家。明治28年4月10日生まれ。青山学院高等科在学中に合田(ごうだ)清を知り、木版画をはじめ。カナダなどを放浪後、中学の英語教師をつとめるかわら木版画家として活動。のち日本創作版画協会会員、国画会会員。文明開化調や南蛮趣味の作品を発表。昭和47年9月1日死去。77歳。神奈川県出身。本名は澄雄。詩画集に「青髯(あおひげ)」など。</p>
	<p><b>川上四郎(かわかみ-しろう)1889—1983</b> 大正-昭和時代の童画家。明治22年11月16日生まれ。雑誌「童話」の表紙絵、挿絵をえがく。昭和2年武井武雄、初山滋(しげる)らと日本童画家協会を結成。農村の子供を題材にのどかな田園風景をえがいた作品がおおい。昭和58年12月30日死去。94歳。新潟県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。絵本に「童謡画集」「良寛さま」など。</p>
	<p><b>梶山俊夫(かじやま-としお)1935—</b> 昭和後期-平成時代の絵本作家。昭和10年7月24日生まれ。洋画から出発し、昭和42年木島始とくんで「鳥獣戯画」を絵本化した「かえるのごほうび」で子どもの本の世界にはいる。民画風のユーモラスな筆致が特徴で、48年いぬいとみこ文「かぜのおまつり」でブラチスラバ世界絵本原画展金のリンゴ賞、同年「いちにちにへんとおるバス」で講談社出版文化賞。57年森はな文「こんこんさまにさしあげそうろう」で絵本につぼん大賞。東京出身。日大卒。</p>
き	<p><b>岸田劉生(きしだ-りゅうせい)1891—1929</b> 明治-昭和時代前期の洋画家。明治24年6月23日生まれ。岸田吟香の4男。黒田清輝(せいき)らの白馬会研究所にまなぶ。雑誌「白樺」の同人とまじわって後期印象派を知り、大正元年高村光太郎らとヒュウザン会をおこす。4年木村莊八らと草土社を結成、静物画や風景画に独特の細密表現を完成した。代表作に娘麗子をモデルにした「麗子五歳之像」にはじまるシリーズがある。昭和4年12月20日死去。39歳。東京出身。</p>
	<p><b>北野恒富(きたの-つねとみ)1880—1947</b> 明治-昭和時代の日本画家。明治13年5月28日生まれ。稲野年恒に師事。明治43年文展で「すだく虫」が初入選。大正3年からは院展に出品。6年日本美術院同人。また大正美術会、大阪美術会を結成。大阪を拠点に独特の美人画をえがいた。昭和22年5月20日死去。68歳。石川県出身。本名は富太郎。作品に「日照雨」「願ひの糸」「星」など。</p>
く	<p><b>久保田米僊(くぼた-べいせん)1852—1906</b> 明治時代の日本画家。嘉永(かえい)5年2月25日生まれ。鈴木百年に師事。明治13年幸野榊嶺(ばいれい)らと京都府画学校を創立。23年国民新聞社にはいり、26年のシカゴ万国博覧会、27年の日清(にっしん)戦争の報道記録画は時事風俗画に新生面をひらいた。明治39年5月19日死去。55歳。京都出身。本名は満寛。代表作に「半偈捨身(はんげしゃしん)」。著作に「米僊画談」など。</p>
こ	<p><b>小寺健吉(こでら-けんきち)1887—1977</b> 大正時代の洋画家。明治20年1月8日生まれ。大正2年文展出品の「秋近く」が初入選。13年光風会会員。昭和3年「南欧のある日」で帝展特選。風景画がおおく、戦後も日展、光風会展に出品した。昭和52年9月20日死去。90歳。岐阜県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。</p>
	<p><b>小村雪岱(こむら-せつたい)1887—1940</b> 大正-昭和時代前期の日本画家。明治20年3月22日生まれ。下村観山(かんざん)、松岡映丘(えいきゅう)らにまなぶ。昭和10年国画院同人。泉鏡花「日本橋」の装丁や、邦枝完二「おせん」「お伝地獄」の挿絵で知られる。時代考証に通じ、舞台装置も手がけた。昭和15年10月17日死去。54歳。埼玉県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。本名は安並泰輔。旧姓は小松。</p>
さ	<p><b>佐野繁次郎(さの-しげじろう)1900—1977</b> 昭和時代の洋画家。明治33年1月13日生まれ。信濃橋洋画研究所で小出檜重(ならしげ)にまなぶ。昭和4年二科展に初入選、6年樗牛(ちよぎゅう)賞。13年フランスにわたり、マティスに師事。22年二紀会会員。洗練された色彩、斬新な構図が注目された。挿絵には横光利一作の「寝園」「雅歌」などがある。昭和62年12月2日死去。87歳。大阪出身。</p>
し	<p><b>松齋吟光(しょうさい-ぎんこう)</b> 江戸後期-明治時代の浮世絵師。 江戸の人。はじめ役者絵を、明治10年ごろから風俗画、時事・報道画、美人画などをえがいた。本名は安達平七。別号に松雪齋銀光。</p>
	<p><b>塩出英雄(しおで-ひでお)1912—2001</b> 昭和-平成時代の日本画家。明治45年4月6日生まれ。奥村土牛(とぎゅう)に師事し、院展で活躍。昭和25年「泉庭」が日本美術院賞、44年「春山」が内閣総理大臣賞となる。38年母校武蔵野美大の教授。平成13年3月20日死去。88歳。広島県出身。</p>

本の装い百年—近代日本文学にみる装幀表現  
画家・装幀家一覧

す	<b>鈴木華邨(すずき-かそん)1860—1919</b> 明治-大正時代の日本画家。安政7年2月17日生まれ。菊池容斎(ようさい)の高弟中島亨斎にまなぶ。明治40年第1回文展に「平和」が入賞。花鳥山水画にすぐれ、挿絵や陶磁器などの工芸図案でも知られた。門下に梶田(かじた)半古がいる。大正8年1月3日死去。60歳。江戸出身。本名は惣太郎。別号に忍青。
た	<b>大蘇芳年(たいそ-よしとし)月岡芳年(つきおか-よしとし)を見よ</b>
	<b>武内桂舟(たけうち-けいしゅう)1861—1942</b> 明治-昭和時代前期の挿絵画家。文久元年10月11日生まれ。武内半助の次男。狩野永恵(えいとく)、月岡芳年に日本画をまなぶ。硯友(けんゆう)社の尾崎紅葉や川上眉山らの小説の挿絵をかく。児童読み物の巖谷小波(いわや-さざなみ)とコンビをくみ、博文館の「少年世界」で活躍した。昭和17年1月3日死去。82歳。江戸出身。本名は平。
	<b>竹久夢二(たけひさ-ゆめじ)1884—1934</b> 明治-昭和時代前期の画家、詩人。明治17年9月16日生まれ。38年ごろから挿絵画家として活躍、独特の美人画のほか「宵待草」などの叙情詩で人気を博す。大正3年東京に趣味の店港屋をひらき、商業デザインも手がけた。昭和9年9月1日死去。51歳。岡山県出身。本名は茂次郎。歌集に「山へよする」、画集に「春の巻」、詩画集「どんたく」など。
	<b>谷中安規(たになか-やすのり)1897—1946</b> 大正-昭和時代前期の版画家。明治30年1月18日生まれ。東京の豊山中学を中退。永瀬義郎にまなぶ。昭和6年日本版画協会の創立に参加。版画誌「白と黒」「版芸術」同人となり、幻想的な画風の作品を発表。内田百聞(ひゃっけん)、佐藤春夫らの作品の挿絵、装丁も手がけた。昭和21年9月9日死去。50歳。奈良県出身。
つ	<b>月岡芳年(つきおか-よしとし)1839-1892</b> 幕末-明治時代の浮世絵師。天保10年3月17日生まれ。月岡雪斎の名跡をつぐ。歌川国芳に師事し、のち菊池容斎に私淑。慶応2年落合芳幾(よしいく)と合作した「英名二十八衆句」の残酷絵で有名になる。画風は多彩で、維新後は新聞挿絵などで活躍。弟子に水野年方(としかた)ら。明治25年6月9日死去。54歳。江戸出身。本姓は吉岡。通称は米次郎。別号に一魁斎(いっかいさい)、大蘇(たいそ)など。
	<b>津田青楓(つだ-せいふう)1880—1978</b> 明治-昭和時代の画家。明治13年9月13日生まれ。西川一草亭(いっそうてい)の弟。関西美術院で浅井忠(ちゅう)らにまなぶ。大正3年二科会創立に参加、左翼運動にくわり、昭和6年「ブルジョア議会と民衆の生活」を出品、検挙される。のち転向して二科会を退会、日本画に転じた。昭和53年8月31日死去。97歳。京都出身。旧姓は西川。本名は亀治郎。
て	<b>寺田政明(てらだ-まさあき)1912—1989</b> 昭和時代の洋画家。明治45年1月3日生まれ。太平洋美術学校にまなび、松本竣介らと交わる。独立美術協会展、美術文化協会展に出品。戦後は自由美術家協会をへて昭和39年主体美術協会を創立する。作品は超現実主義的。平成元年7月12日死去。77歳。福岡県出身。作品に小樽運河の連作「雪の小樽」など。
と	<b>富岡永洗(とみおか-えいせん)1864—1905</b> 明治時代の日本画家。元治(げんじ)元年3月生まれ。信濃(しなの)(長野県)松代(まつしろ)藩士の子。陸軍参謀本部で製図の仕事しながら小林永濯(えいたく)にまなぶ。明治23年から画業に専念。風俗画を得意とし、雑誌「風俗画報」や「都新聞」に挿絵をえがいた。明治38年8月3日死去。42歳。通称は秀太郎。別号に藻斎。
	<b>東郷青児(とうごう-せいじ)1897—1978</b> 大正-昭和時代の洋画家。明治30年4月28日生まれ。有島生馬(いくま)にまなぶ。フランスに留学し、昭和6年二科会会員。戦後は二科会再建の中心となり、36-53年会長。32年壁画「創生の歌」で芸術院賞。幻想的で詩情ゆたかな女性像をえがいた。芸術院会員。昭和53年4月25日死去。80歳。文化功労者を追贈された。鹿児島県出身。青山学院中学部卒。本名は鉄春。
な	<b>中村不折(なかむら-ふせつ)1866—1943</b> 明治-昭和時代前期の洋画家、書家。慶応2年7月10日生まれ。不同舎で小山正太郎(しょうたろう)や浅井忠(ちゅう)に、フランスでローランスにまなぶ。帰国後、太平洋画会会員として活躍。太平洋美術学校長となった。帝国美術院会員。書にもすぐれ、自宅に書道博物館をつくる。昭和18年6月6日死去。78歳。江戸出身。本名は太郎(さくたろう)。別号に環山、孔固亭。作品に「建国勲業」「羅漢図」など。
	<b>中沢弘光(なかざわ-ひろみつ)1874—1964</b> 明治-昭和時代の洋画家。明治7年8月4日生まれ。堀江正章、黒田清輝(せいき)らにまなび白馬会にくわわる。明治40年「夏」で文展入選。のち文展審査員、帝国美術院会員、帝室技芸員。昭和32年文化功労者。昭和39年9月8日死去。90歳。東京出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。作品に「おもひで」「まひる」など。

本の装い百年—近代日本文学にみる装幀表現  
画家・装幀家一覧

	<p><b>中川一政(なかがわ-かずまさ)1893—1991</b> 大正-昭和時代の洋画家。明治26年2月14日生まれ。独学で油絵をはじめ、大正3年「酒倉」で巽(たつみ)画会展入選。4年草土社に参加し、10年「静物」で二科賞。のち春陽会会員となる。新聞小説の挿絵や水墨画、書も制作した。昭和50年文化勲章。平成3年2月5日死去。97歳。東京出身。錦城中学卒。作品はほかに「箱根駒ヶ岳(こまがたけ)」など。</p>
は	<p><b>橋口五葉(はしぐち-ごよう)1880—1921</b> 明治-大正時代の洋画家、版画家。明治13年12月21日生まれ。44年三越の美人画ポスター募集に応募、入賞。大正4年以降は浮世絵風美人画・風景画などの独特の木版画を制作。夏目漱石の「吾輩は猫である」などの装丁でも知られた。大正10年2月24日死去。42歳。鹿児島県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。本名は清。作品に「浴場の女」「化粧の女」など。</p>
	<p><b>橋本邦助(はしもと-ほうすけ)1884—1953</b> 明治-昭和代の洋画家。明治17年1月2日生まれ。40年の第1回文展から「ともしび」「水のほとり」「幕間」が3回連続入賞。黒田清輝らの影響をうけた。一時日本画も出品、また雑誌、単行本の挿絵、口絵なども手がけた。昭和28年1月7日死去。69歳。栃木県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。</p>
ひ	<p><b>鱒崎英朋(ひれざき-えいほう)1881—1968</b> 明治-昭和時代前期の挿絵画家。明治14年8月25日生まれ。右田年英(みぎた-としひで)、川端玉章にまなび、明治34年鐘木(かぶらき)清方らと烏合(うごう)会を結成。美人画、相撲絵を得意とし、広津柳浪「河内屋」、柳川(やながわ)春葉「生(な)さぬ仲」など新聞や雑誌、単行本の挿絵をかいた。昭和43年11月22日死去。87歳。東京出身。名は太郎。</p>
	<p><b>ビゴ (Bigot, Georges Ferdinand) 1860—1927</b> フランスの画家。1860年4月7日生まれ。エミール=ゾラらの影響で日本に関心をもつ。明治15年(1882)来日し、陸軍士官学校でおしえる。のち風刺漫画雑誌「トバエ」や風刺画集を刊行。また「改進黨新聞」などに挿絵をかく。日本人と結婚し一子をもうけたが、32年の条約改正による居留地廃止にともない、官憲の弾圧をおそれ離婚し帰国。1927年10月10日死去。67歳。パリ出身。エコール=デ=ボザール卒。画集に「日本素描集」など。</p>
ふ	<p><b>深沢索一(ふかざわ-さくいち)1896—1947</b> 大正-昭和時代代の版画家。明治29年9月4日生まれ。大正11年日本創作版画協会展に入選、のち日本版画協会展、春陽会展などに出品。風景画を得意とし、多色木版やモノクロ木版の小品で知られる。随筆集などの装丁も手がけた。昭和22年1月12日死去。52歳。新潟県出身。京都中央商業卒。</p>
む	<p><b>村山知義(むらやま-ともよし)1901-1977</b> 大正-昭和時代の演出家、劇作家、画家。東京出身。ドイツから帰国後、前衛美術家として登場。舞台美術、演出を手がけ、左翼劇団、新協劇団で指導的な地位を占めた。第二次大戦後は再建新協、東京芸術座で活動。戯曲「暴力団記」「志村夏江」、小説「白夜」「忍びの者」など。</p>
や	<p><b>山本鼎(やまもと-かなえ)1882—1946</b> 大正-昭和時代前期の洋画家、版画家。明治15年10月14日生まれ。山本太郎の父。村山槐多の従兄。北原白秋の義弟。大正1-6年滞欧。7年日本創作版画協会を創設、また児童の自由画教育、農民美術運動を推進する。11年春陽会創立会員。昭和21年10月8日死去。65歳。愛知県出身。東京美術学校(現東京芸大)卒。作品に「サーニャ」「ブルトンス」など。</p>
	<p><b>柳瀬正夢(やなせ-まさむ)1900—1945</b> 大正-昭和時代前期の洋画家、漫画家。明治33年1月12日生まれ。大正10年「種蒔く人」同人となる。未来派美術協会、マヴォなど前衛美術団体に参加。のちプロレタリア美術にむかい、政治漫画、風刺画をかく。昭和7年治安維持法違反で入獄。昭和20年5月25日空襲にあい死去。46歳。愛媛県出身。本名は正六(まさむ)。筆名は夏川八朗。作品集に「柳瀬正夢画集」など。</p>
	<p><b>安井曾太郎(やすい-そうたろう)1888—1955</b> 大正-昭和時代の洋画家。明治21年5月17日生まれ。聖護院(しょうごいん)洋画研究所で浅井忠(ちゅう)に、パリでJ. ローランスにまなぶ。帰国後の大正4年二科展で注目され会員となる。独自の写実様式を確立し、梅原竜三郎とともに一時代を画す。昭和10年帝国美術院会員。11年一水会を創立。19年東京美術学校(現東京芸大)教授。27年文化勲章。昭和30年12月14日死去。67歳。京都出身。代表作に「婦人像」「金蓉(きんりょう)」など。</p>
わ	<p><b>渡邊省亭(わたなべ-せいてい)1852-1918</b> 明治大正期の日本画家。江戸神田生まれ。本姓吉川、名は義復、通称良助。16歳のとき菊池容齋に入門し、また柴田是真に私淑。師風を墨守すべからずという容齋の塾風に従い、花鳥画家として立った。明治8(1875)年から起立工商会社で輸出工芸の下絵図案を描き、11年のパリ万博に同社から出張。日本画家の渡欧は、おそらくこれが最初である。帰国後、洋風の質感表現を加えた花鳥画を創出。万博で高賞を受賞し、国内よりむしろ欧米で高い評価を得た。作品は欧米各地の美術館やコレクションに含まれている。また木版画、雑誌挿絵も多く制作した。</p>